

第1部 トークセッション

次世代経営者ワークショップへの 参加と今後の期待



日時 | 令和8（2026）年2月3日（火）
場所 | TKP市ヶ谷カンファレンスセンター 8階 大ホール

ファシリテーター 中澤 昌彦（森林総合研究所）

1. 第1部 トークセッション 登壇者紹介
2. 事例紹介 3社 ((有)天女山/(株)fewt・守屋木材(株)・(有)ヤナザイ)
3. 次世代経営者ワークショップの概要
4. 登壇者コメント 3社（小宮山様・守屋様・山内様）
5. 提案を募集する課題（問題意識）のリスト

第1部トークセッション 登壇者紹介



小宮山 信吾
(有)天女山
(株)fewt
代表取締役



守屋 光泰
守屋木材(株)
次長
(有害駆除隊員)



山内 秀紀
(有)ヤナザイ
取締役

(有)天女山/(株)fewt 事例紹介

■安全への取組



高視認性衣類の着用



社内競技会開催

■バックオフィスと現場の融合



■ICT人材育成の取組



(有)天女山/(株)fewt 事例紹介

■新しい林業の取組



リモートセンシングによる在庫管理



各種実証実験協力



通信機能付きハーベスター(CT)国内初導入

守屋木材(株) 事例紹介

■獣害対策の取組

現状



日本鹿研究協会



- ・被害内容：鹿の食害、熊剥、猪の掘り返し
- ・被害：育林放棄 植林不可
- ・対策方法：地元獵友会との協力と森林の積極的開放
- ・効果：あり
 - 被害の減少
 - 相互及び周囲の情報共有



守屋木材(株) 事例紹介

■獣害対策の取組



・皆様への質問：次にどんな森づくりを行えばよいのか？（何を植えれば良いのか）

■業務データベースの構築

日報アプリを使わず、ExcelとAccessを使用して自社で作成

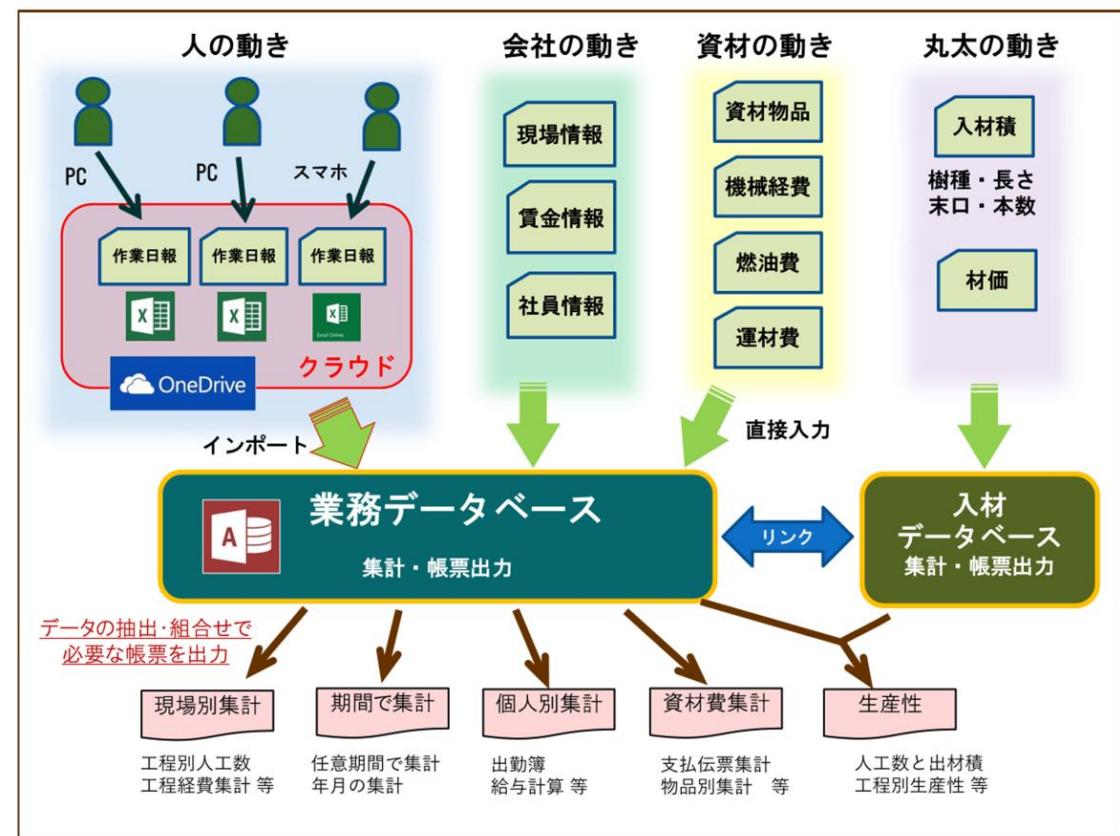
→作業員の手間にならないような入力方法 細かなデータ取りが可能

日報集計
賃金集計
資材集計
入材集計

を一元管理

現場の取りまとめ、各種申請
調査資料作成等の集計・帳票
出力が可能。

事務手間の低減。





■ **自走式搬器 ウッドライナー3000**

架線設置撤去のコスト低減
作業員数 1名減（集材機運転者）



■ **デジタルキャリパー
(電子輪尺)**

皆伐の全本数調査を省力化
PCへのデータ取込みが簡易



■ **GISの活用**
計画図や測量データなどを
Qfieldに取込み現場で確認

次世代経営者ワークショップの概要

□ 開催概要

- 日 時：2025年10月7日（火） 9：30～16：00
- 会 場：TKPガーデンシティPREMIUM仙台
- 参加者：林業事業体等の経営に関わる方 15名
委員等オブザーバー2名

□ テーマ

- ① 現場作業の安全性を高めるための取組
- ② 獣害対策の省力化、低コスト化のための取組
- ③ 自社に新技術を導入するための人材確保・育成 / 外部サービス利用の取組



全てのテーマにおいて活発な意見交換が行われ、多くの参加者が、他社の取組を参考にして自社の課題解決に取り組むアイディアを得ることができました。

一方で、現状では課題解決に至る取組や製品・技術が乏しいと感じるものがあることも共有されました。

□ 森ハブ会員への情報共有（WSの概要共有）

□ 森ハブ会員からの提案募集

- 既存の製品・サービスを提案
- 改善した事例の紹介

□ 新たな製品・サービスの開発につなげるための対話 (ユーザーヒアリング)





日頃の業務で困っていること、改善のために取り組んでいること

- ・バックオフィスと現場の連携がとりにくいため、事務のDX化に取り組み始めている。
- ・産業全体の利益構造の悪さを開拓するため、「新たな林業」に微力ながら取り組んでいるが、ICT人材の育成に課題がある。

次世代経営者ワークショップへの参加

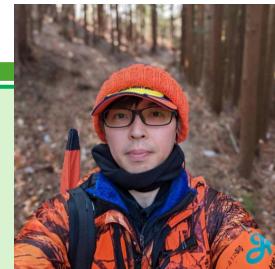
- ・全国の先進的な取り組みを行う皆様とのWSを通じて、様々な想いを共有できたことは素晴らしい財産となった。
- ・安全については、対策＝コストという概念を持っていたが、「対策＝投資」という考え方を教えられ、安全対策にかかる費用を恐れずに捻出できるようになった。



森ハブ・プラットフォームへの期待



- ・もはや林業は「木を植え・木材を売る」行為だけでは成り立たなくなりつつある。いかに森林に投資を呼び込むか。まさしく森林業への転換のためにも産業を飛び越えた連携が必要であり、森ハブの役割はさらに重要となる。
- ・林業＝山村の産業であり、山村には様々な課題が存在する。この地域課題を解決しない限り、林業に将来はない。そのような課題解決の手段として、森ハブがもっと機能することを期待する。
- ・林業は地域性であり、実情も異なる。小さなワーキンググループ活動をさらに活性化させ、「かゆいところに手が届く」取り組みを促進すべきである。



日頃の業務で困っていること、改善のために取り組んでいること

- ・植林地の食害に困っている
- ・獣害対策のため、有害駆除（狩猟）に取り組んでいる

次世代経営者ワークショップへの参加

(WSで印象に残ったこと)

⇒世代に関わらず、多くの方が共通の問題意識を持っていたこと。

⇒様々なアイディアが出てきて、先行事例のお話もお伺いでき刺激を頂いたこと。



森ハブ・プラットフォームへの期待

(PFイベントへの期待)

⇒参加者の皆さんの山を現地で見てみたい！

(会員同士の交流・マッチングへの期待)

⇒1つの具体的なテーマに対して興味のある会員でWSを開催





日頃の業務で困っていること、改善のために取り組んでいること

- ・架線集材の架設撤去の省力化（人工支柱、アンカーワーク）、急傾斜地造林の省力化
限られた人員の施業地の割り振り
- ・立木調査にデジタルキャリパーを活用、QGIS、Qfieldの活用
デジタルコミュニティー無線、GNSS測量

次世代経営者ワークショップへの参加

- ・類は友を呼ぶ。
いろんなアイデアある方々と活発な意見交換ができた。



森ハブ・プラットフォームへの期待

(PFイベントへの期待)

林業技士、フォレストマネージャー、経営プランナー等も呼びかけ。現場からの要望吸い上げ
開発、改良テーマ別に分けて開催。機械メーカー・ソフト会社も参加。

(会員同士の交流・マッチングへの期待)

想像を言葉にできる時間空間。ワクワク感あり
既存の技術の組み合わせができるであろう期待感



提案を募集する課題(問題意識)リスト

No.	課題(問題意識)	求める提案
1	安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ① ヒヤリハットを気軽に共有できる全国版のシステム ② 防護服・空調服の改良 ③ ロボット化 → No.4へ統合
2	下刈りの省力化	<ul style="list-style-type: none"> ① より効果と安全性が高い成長抑制剤の開発、適正な利用方法と安全性の確認 ② 手押し式の草刈り機の開発 ③ 空調服の改良 → No.1②へ統合
3	ドローンによる集材・搬出技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> ① 丸太を1日に10往復以上運搬可能なドローン
4	遠隔操作・自動運転林業機械の実装の加速	<ul style="list-style-type: none"> ① 林内で利用できる高精度位置情報技術 ② 熟練作業者の操作データをAI化、シミュレーターを用いた教育環境整備 ③ 実証実験用フィールドや情報共有プラットフォーム
5	若手のモチベーションを上げる人材育成システム	<ul style="list-style-type: none"> ① キャリアパスの明確化 ② シニア世代から若手への技術伝承と育成プログラム
6	獣害対策のための大型ロボットの開発	<ul style="list-style-type: none"> ① 大型ロボットの自動巡回による監視・威嚇システム
7	耕作放棄地の積極活用策	<ul style="list-style-type: none"> ① 早生樹植栽・バイオマス利用
8	GISのさらなる活用に関する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① GISオペレータの育成 ② オープンデータ化促進、データ統合・共有基盤の整備
9	作業計画アプリと実績分析によるPDCA	<ul style="list-style-type: none"> ① PDCAに活用できる実績データの分析アプリ

Forestry 5.0に向かって スマート林業、Forestry 4.0の実装

Forestry 5.0の主な目標 (Ola Lindroos, 2025)

気候に健全な森林、生態系に優しい森林施業、持続可能な木材製品、経済的・生態学的満足を得た顧客

